

令和4年度松本技術専門校運営協議会 主な意見等

議 題	構成員からの意見	校からの回答・校の考え方
事業概要について	(スキルアップ講座) R4年度は建築造園系は開催がなかったとのことだが、その背景をお聞きしたい。	講師の方が高齢であること、応募者があまり見込めなかったことといった状況がありました。また、開催できる年間講座数が限られている中で、県の人材育成プランの方向性も踏まえた新しい講座を取り入れるということもあり、総合的に判断しました。
	(スキルアップ講座) 建築系の講座が中止になったことはしかたがないと思うが、今後、開催の環境が整えばぜひ再開してほしい。また、募集について、相談していただければ、団体構成員に毎月配布する機関誌に掲載する等、協力できることがある。	新しく取り入れていく講座がある一方で、技能継承からもなくしてはならないと思われる講座もあると考えるため、教える側の人材確保や魅力ある内容となる工夫等をしていかなければと考えています。また、募集の際の御協力もよろしくお願いいたします。
訓練科の改編(案)について	電気・設備科の改編については、業界が望んだことが形となっている。  電気・設備科の希望者が桁違いに低い状況をみれば、こういうわかりやすい方向にもっていくことは重要だ。	電気・設備科について2年制訓練を1年制訓練にするのは、実は躊躇するところがありました。しかし、業界側のお話をお聞きすると、基本的な資格及び技能を身に着けて早く現場に出るほうがよい面があります。親の収入減により2年間の訓練に係る費用負担が重くなることもあります。早く就職して、企業において技能向上や資格を取るということも可能と考えられます。 今回の改編については、職業意識を明確化し、なりたい職業として選択してもらう前向きなものとして、募集活動に当たっては、高校等に丁寧に説明していきたいと考えています。
	建築に関して、国の進める高いレベルの省エネ住宅は、伝統工法とは相いれない部分がある。技能を持った大工さんなどからは、省エネのいきつくところは伝統工法が否定されてしまうといった意見聞いている。技能継承という点はよろしくお願いしたい。	技能の継承は大事なことと考えており、2年制を残しました。  当校の指導員も、建築の技能継承について、若いこれから働く方が、日本の伝統工法を知らない建築大工にならないように、訓練を継続していくこととしています。  また、逆に、現場代理の仕事をやりたいという方も、早めに1年で資格を取得すれば早期に就職につながるということもあります。この双方の点から改編案を考えまして、県産業人材育成課に承認してもらいました。
	自動車整備業界はまだ古い体質が残っていて、人材が少ないと嘆く前に、車に興味をもってもらい、自分たちの体質(環境、給料、待遇等)を変えなければ、人材は集まらない。  技専校の訓練生を増やして、彼らに興味や意識をもって業界に来てもらうことを考え、業界団体としても頑張っていけないと実感している。  今は、車を移動手段ととらえ、あまり興味を持たない若者が増えている。また、スマホ操作に夢中となり、車中での親との会話等なくなってコミュニケーション能力も低下していると思う。このような状況は社会全体で変えていかなくてはと思う。	自動車整備科の来年度入校性が減ったということに、私どもも危機感をもっていますので、業界としてのご協力もお願いいたします。  4年ほど前から、会社に在職しながら普通課程の訓練を受けることが可能となりました。1年制ができれば、入校中の給料負担が減る等利用しやすくなると思いますので、機会がありましたらこういう制度もご利用していただければと思います。
その他	技専校とタックを組んで小中高の学校に、業界の説明をする機会を作ってもらいたい。電気屋さん、設備屋さん、大工さんは何をやっているのかといった、業界を若い人に知らせていきたいと思っている。	こちらからも、ぜひお願いいたします。